

## 秋田県生涯学習・社会教育研究大会(兼)行動人交流集会 実施レポート

日時：令和元年11月15日(金) 10時～15時(フリー交流タイムは15時30分まで)  
会場：秋田県生涯学習センター 3階講堂ほか 参加者：県内20市町村と県外から164名

今年度も「生涯学習・社会教育研究大会」と「行動人交流集会」を合同で開催しました。「30年後の社会教育を見据えて」をテーマに、県内外から164名が参加して学びと交流を深めました。



### 【基調講演】

はじめに東北大学の佐藤智子准教授から、「30年後の社会教育を見据えて～学び合うコミュニティの形成に向けた課題と方策～」のテーマで基調講演をしていただきました。

少子高齢化の現状から話を始め、人口減少で生じる問題がある一方で科学技術も間違いなく進んでおり、私たちが社会の変化をどう受け止め、どんな行動をとるか次第で、生活への影響も変わってくると指摘されました。

次に社会教育に話を移し、学んだ知性・教養を生活や地域づくりに結びつけられるのが社会教育の強みであることや、



【佐藤先生の講演】

社会教育は学校教育に相対するものとして発展し、日常生活の中での人間形成を担ってきた経緯に触れられました。生涯学習については、現代は「学習」を個人の成果として捉える従来の考え方から、他者との社会的な関わりによって能動的に構成される「社会構成主義」的なものとして捉えるようになってきていることを説明していただきました。

また、社会教育や公民館は「参加」と「熟議」による民主主義のトレーニングの場として機能してきた経緯があり、それが形骸化している今、新しい話し合い・学び合いの場が必要であることを、兵庫県尼崎市の取組事例(公民館と地域振興センターの統合による多機能化や、「みんなのサマーセミナー」「みんなの尼崎大学プロジェクト」)を紹介しながら強調されていました。

### 【研究報告】

研究報告では、生涯学習センターの柏木睦主任社会教育主事から「障害者の生涯学習」に関する調査研究について紹介しました。

アンケート調査で得られた本県の状況を全国とも比較しながら分析し、本県の障害者は生涯学習の経験や手段が相対的に少ないこと、学習情報の少なさや、参加のための交通手段、保護者の負担が課題となっていることなどを報告しました。

また、生涯学習センターが行った「障害者の生涯学習」の講座に触れ、調査研究と講座、研修を組み合わせることで多くの知見が得られたことや、今後の普及に向けた方向性を説明しました。



【研究報告】

### 【分科会】

分科会では、生涯学習センターの職員が講師を務め、話題提供とグループに分かれての協議を行いました。

第1分科会は皆川雅仁主幹が講師となり、「これからの社会教育を見据えて、今私たちがやらなければならないこと」をテーマに、社会教育が歩んできた歴史を振り返りつつ、今後目指す方向として、地域において「ゆるやかなネットワーク」を形成し、地域の未来を担う子供たちを育成していくことが重要であることを示しました。

第2分科会は宮腰徹主任社会教育主事が講師となり、「これからの生涯学習を考える」をテーマに、学習の成果を行動に移す「行動人」の経緯や理念を確認するとともに、「あきたスマートカレッジ」の実践事例を紹介し、学ぶ者が学ぶ者を支える意義を強調しました。

どちらの分科会でも熱心な協議が行われ、参加者同士が交流を深める場としても貴重な時間となりました。



【上:第1分科会/下:第2分科会】



【左:展示紹介/右:ボッチャ体験】

### 【フリー交流タイム】

交流タイムは閉会後の任意参加とし、「研修レポート解説」「障害者スポーツ体験」「生涯学習活動の展示紹介」の3コーナーを設けました。展示では5つの生涯学習団体が活動の成果や作品を紹介し、障害者スポーツ体験では「ボッチャ」の体験を行いました。

会は快活な雰囲気のまま終了し、有意義な研修機会となりました。